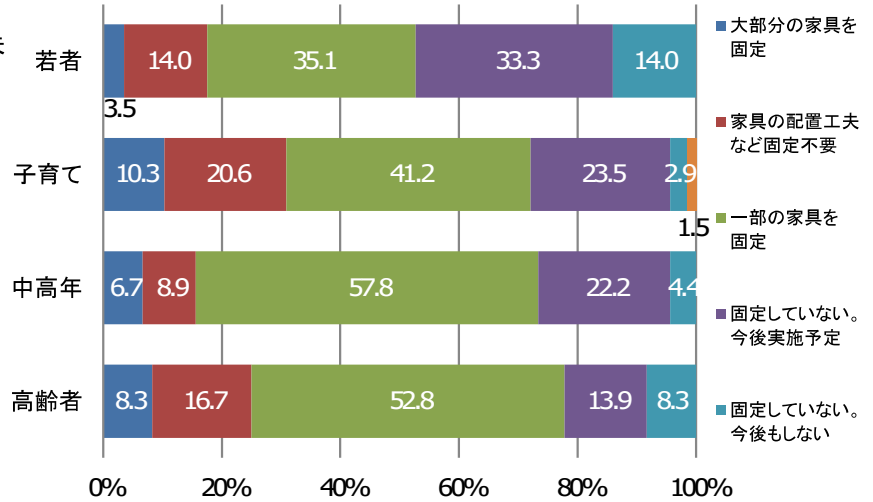
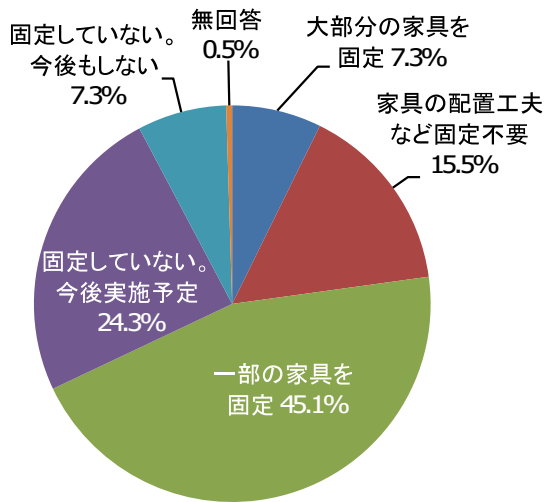


<災害への備えについて>

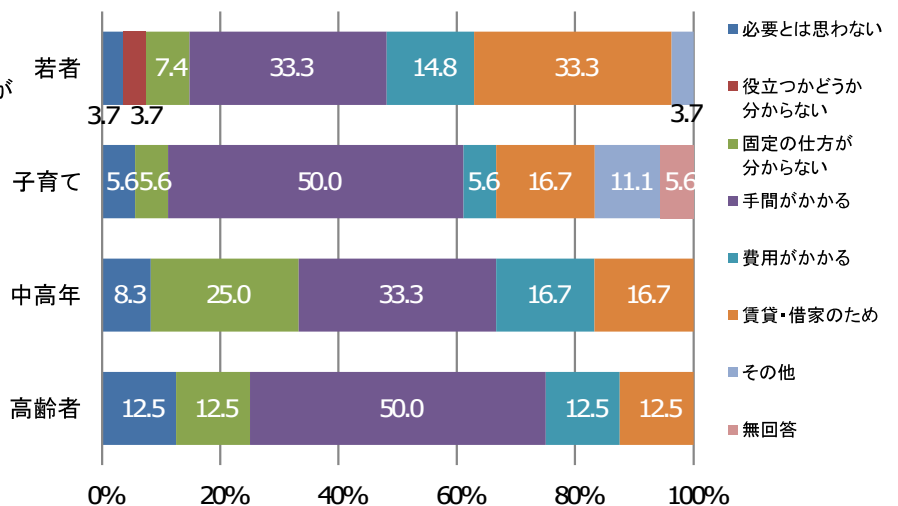
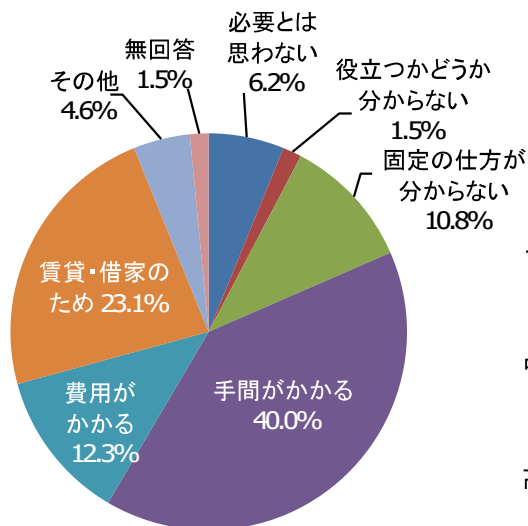
■問1 家具の転倒防止対策の実施 (N=206)



- 家具の転倒防止対策の実施については、『固定している』(「大部分の家を固定」、「家具の配置工夫など固定不要」と「一部の家を固定」の合計)が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者の約5割、子育て・中高年の約7割、高齢者の約8割が『固定している』と回答しています。

■問2 家具を固定しない理由 (N=65)

(問1で「4 固定していない。今後、実施しようと思っている」「5 固定していない。今後実施しようと思わない」と回答した方)



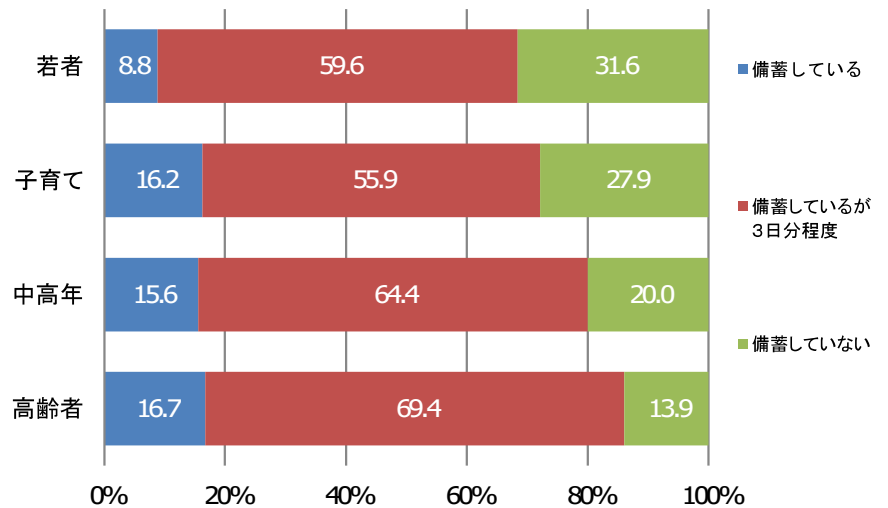
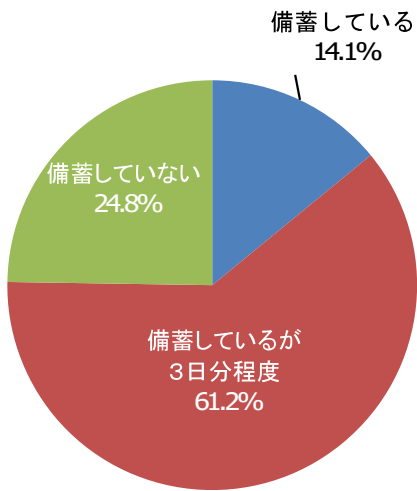
■その他意見

- ・固定すべき家具がない
- ・時間がない

- 家具を固定しない理由については、「手間がかかる」が4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「手間がかかる」が最も多い回答となっています(若者では「賃貸・借家のため」も同率)。

問3 災害の発生に備え7日以上食糧を備蓄※しているか (N=206)

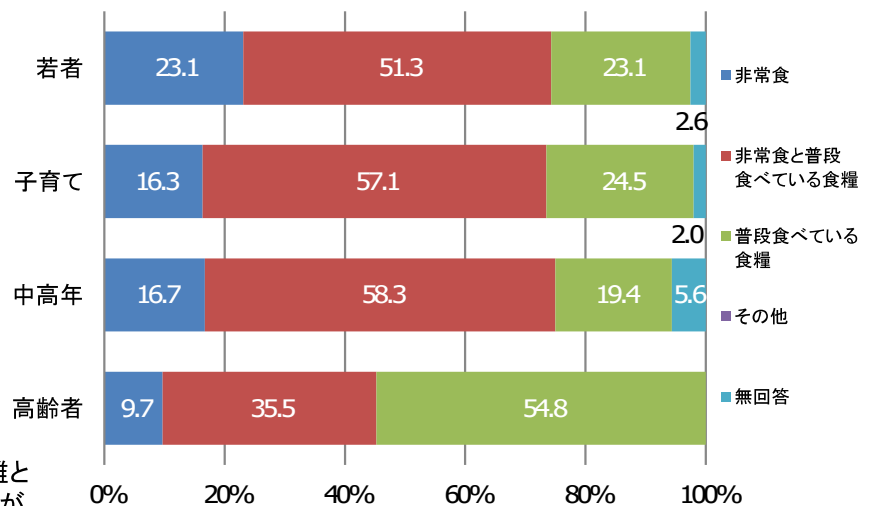
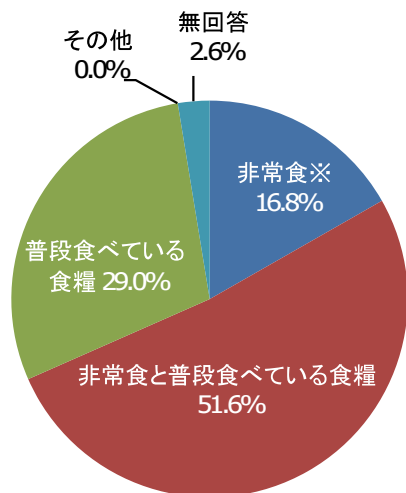
※ 冷蔵・冷凍庫に保有している食品やレトルト食品、缶詰などの日頃の買い置き食品も含めて回答



- 災害の発生に備え7日以上食糧を備蓄しているかについては、「備蓄しているが3日分程度」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「備蓄しているが3日分程度」が最も多い回答となっています。

問4 備蓄している食糧は何か (N=155)

(問3で「1 備蓄している」「2 備蓄しているが3日分程度」と回答した方)

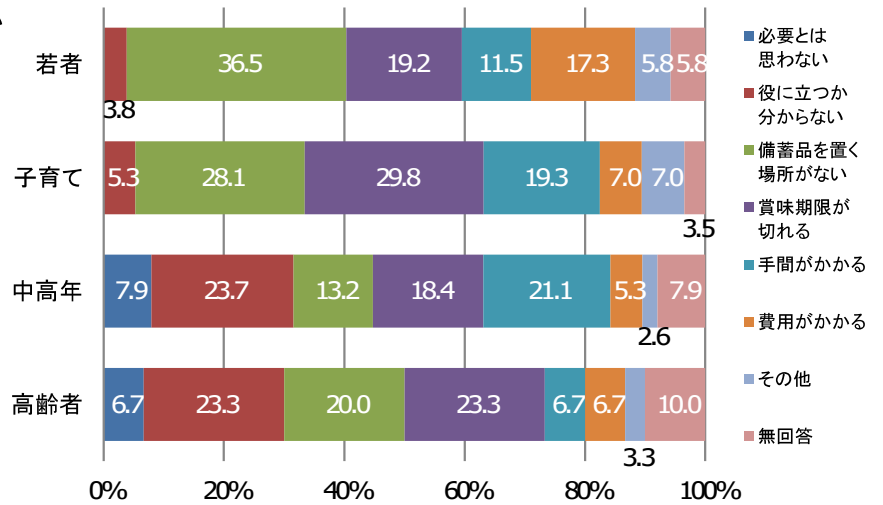
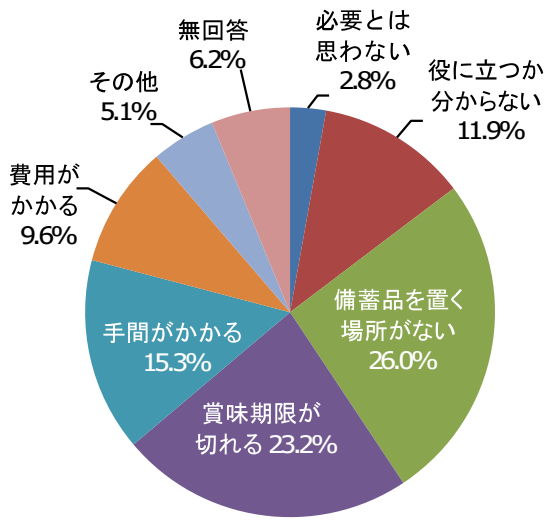


※ 非常食: 災害時など食糧の入手が困難となった場合を想定し作られた長期保存が可能な食糧

- 備蓄している食糧については、「非常食と普段食べている食糧」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「非常食と普段食べている食糧」が、高齢者では「普段食べている食糧」が最も多い回答となっています。

問5 7日以上の備蓄をしない理由 (N=177)

(問3で「2 備蓄しているが3日分程度」「3 備蓄していない」と回答した方)



■その他意見

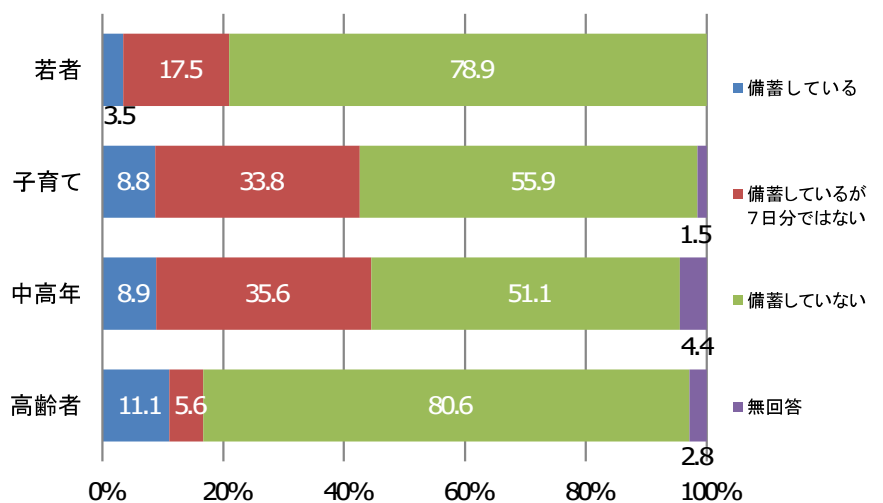
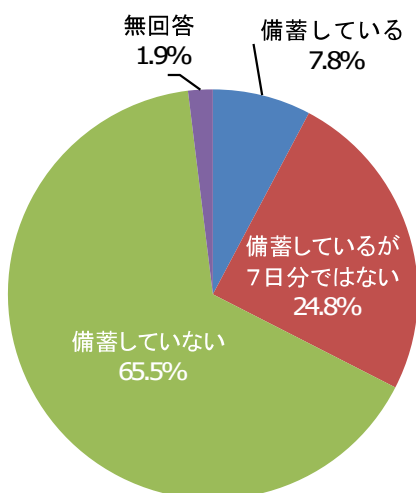
- ・準備しようと思っている
- ・災害援助がすぐに行われるから
- ・危機感があまりない
- ・家にものを増やしたくない

- 7日以上の備蓄をしない理由については、「備蓄品を置く場所がない」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「備蓄品を置く場所がない」が、子育て・高齢者では「賞味期限が切れる」が、中高年では「役に立つかわからない」が最も多い回答となっています(高齢者では「役に立つかわからない」も同率)。

問6 災害の発生に備え7日以上の「携帯トイレ(便袋)※」を備蓄しているか

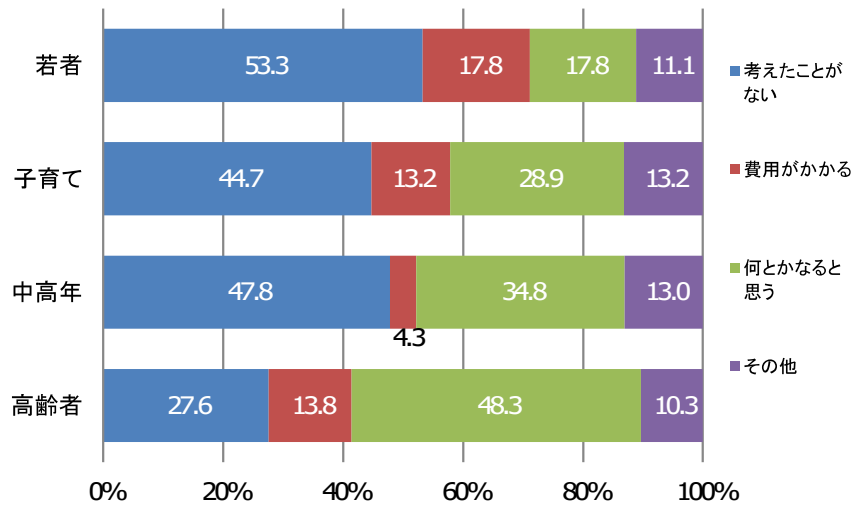
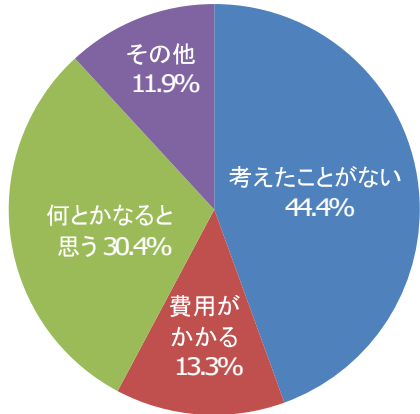
(N=206)

※ 携帯トイレ(便袋): 災害用トイレのうち、既存の洋式トイレに被せて用いる袋で、袋の中に吸収シートが入っているものや、袋と凝固剤を併用するものなど、さまざまな製品がある。
(1日分: 1人5回分×家族の人数分)



- 災害の発生に備え7日以上の「携帯トイレ(便袋)」を備蓄しているかについては、「備蓄していない」が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約8割、子育ての約6割、中高年の約5割が「備蓄していない」と回答しています。

■ 問7 「携帯トイレ(便袋)」を備蓄していない理由 (N=135)
(問6で「3 備蓄していない」と回答した方)



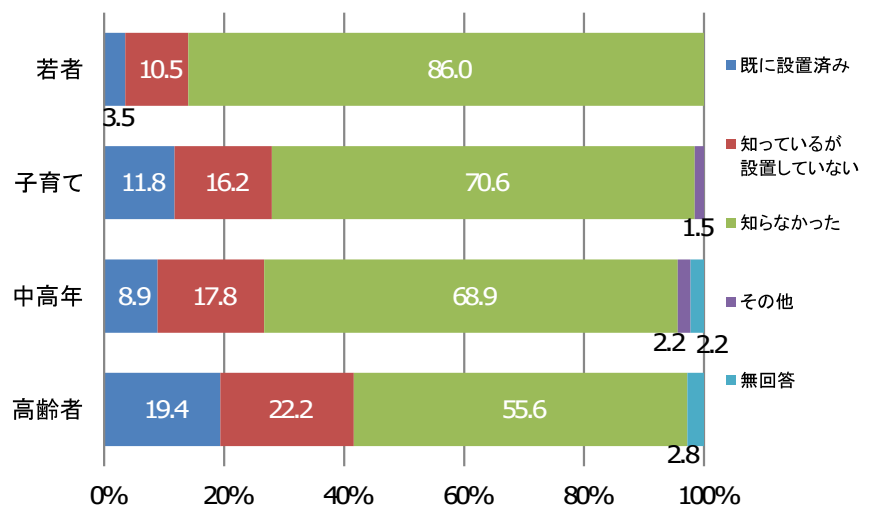
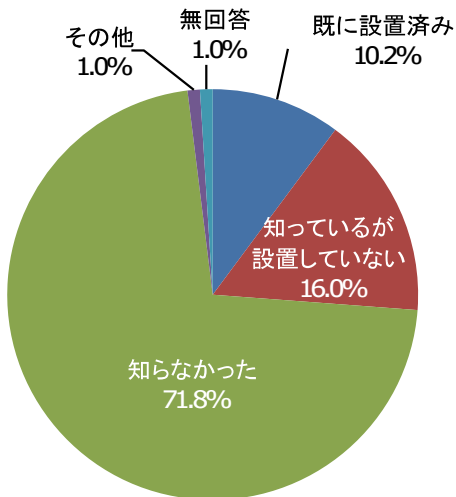
■ その他意見

- ・置く場所がない
- ・これから備蓄する予定
- ・避難所に仮設トイレがあるから
- ・庭(畑)が広いから

- 「携帯トイレ(便袋)」を備蓄していない理由については、「考えたことがない」が約4割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「考えたことがない」が最も多い回答となっていますが、高齢者では「何とかなんとか思う」が最も多い回答となっています。

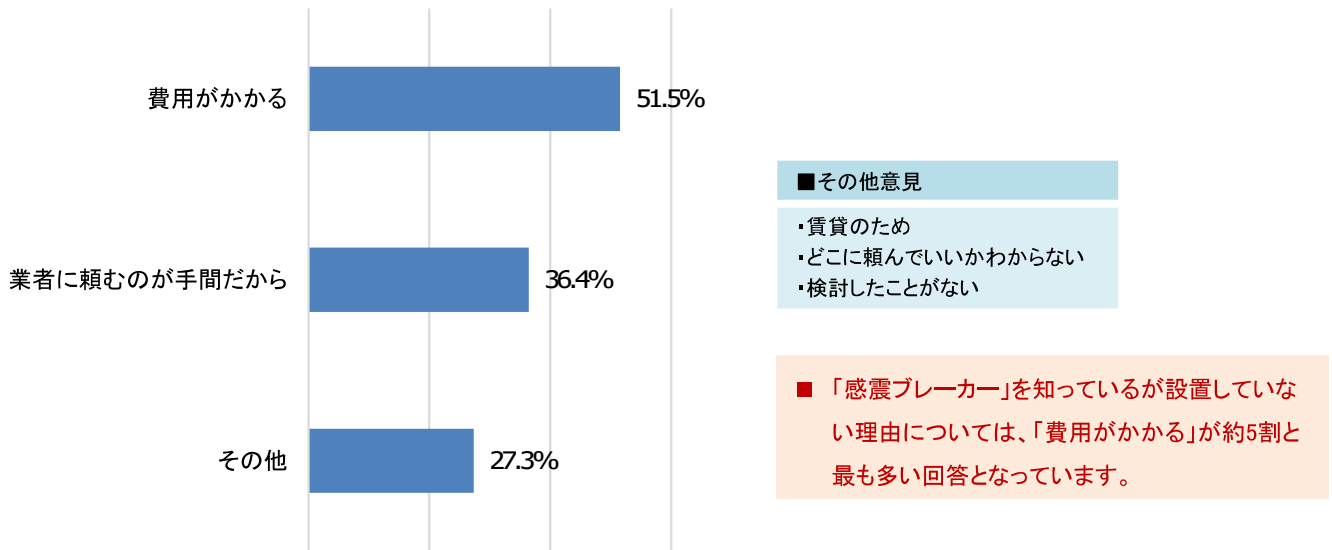
■ 問8 「感震ブレーカー※」の認知度 (N=206)

※ 感震ブレーカー: 地震発生時に設定値以上の揺れを感知したとき、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段となる。



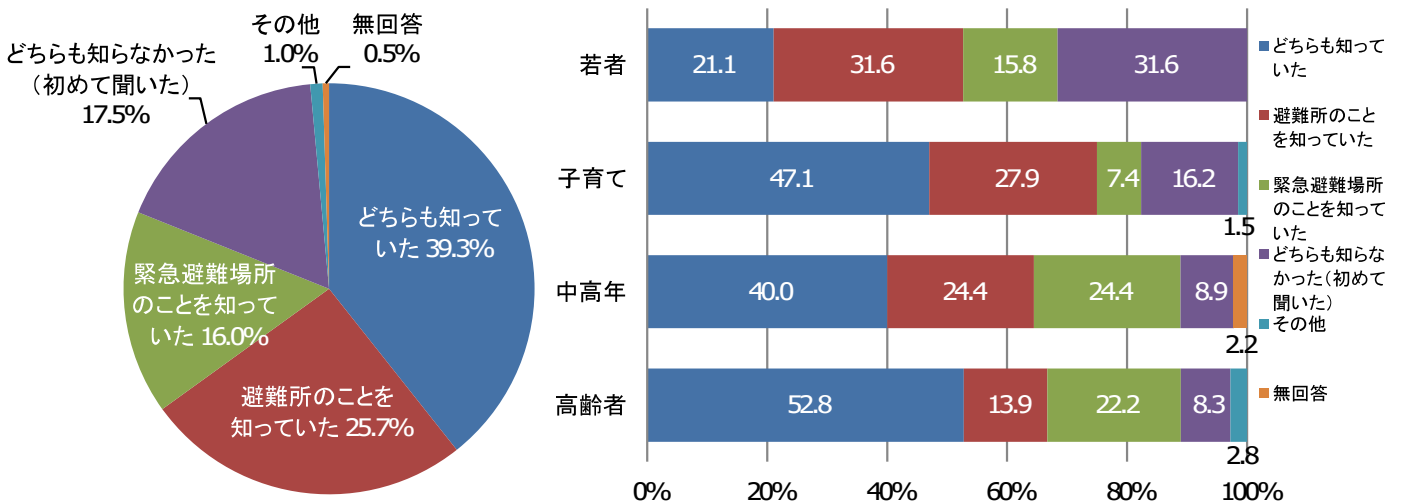
- 「感震ブレーカー」の認知度については、「知らなかった」が約7割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて「知らなかった」の回答割合が低くなっています。

■問9 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由 (N=33 複数回答)
 (問8で「2 知っているが設置していない」と回答した方)



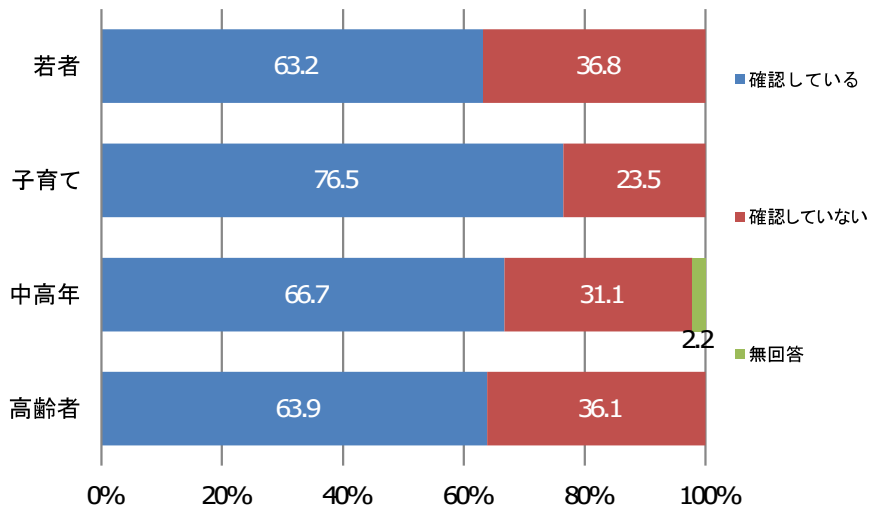
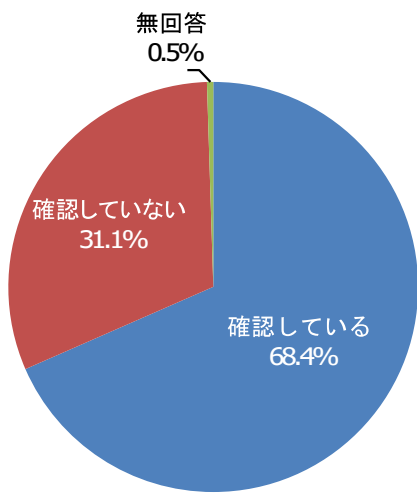
■問10 「避難所※1」と「緊急避難場所※2」の認知度 (N=206)

※1 避難所: 自宅の倒壊などにより生活が困難となり、一定期間滞在して避難生活を送る場所。
 ※2 緊急避難場所: 災害が起きた場合や起きそうな場合に、命を守るためにまず一時的に逃げる場所。



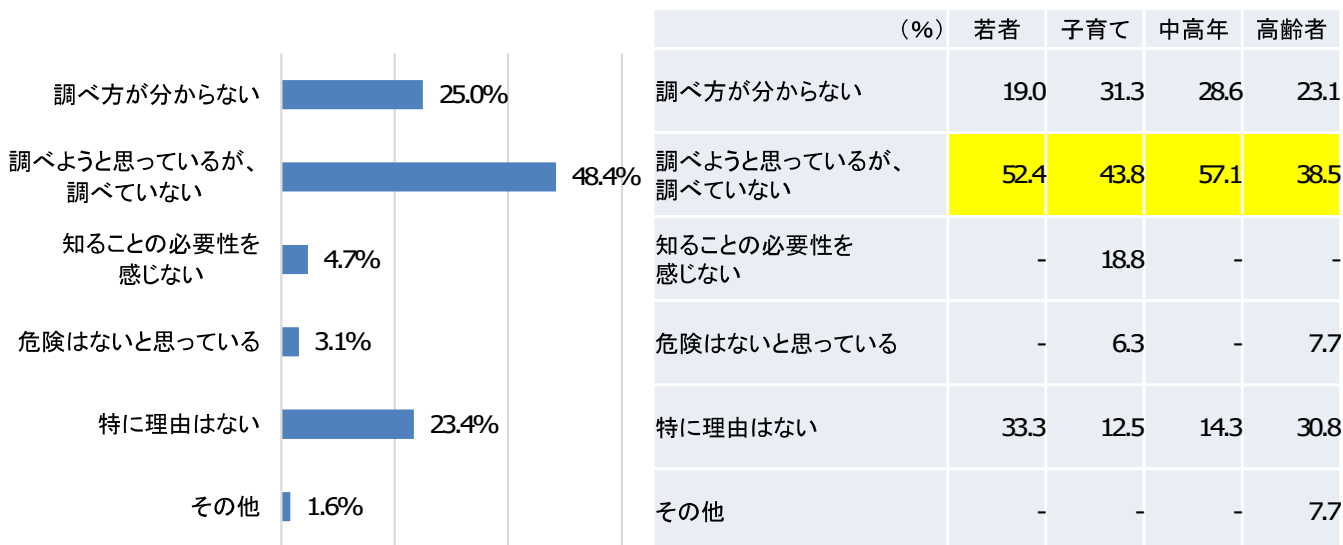
■問11 住んでいる地域に想定されている災害の危険をハザードマップで確認※しているか (N=206)

※ 浜松市ホームページ 防災・消防>防災>防災・災害情報>ハザードマップ(浜松市防災マップ・津波浸水深マップ)



- 住んでいる地域に想定されている災害の危険をハザードマップで確認しているかについては、「確認している」が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約6割、子育ての約8割、中高年の約7割が「確認している」と回答しています。

■問12 ハザードマップを確認していない理由 (N=64 複数回答) (問11で「2 確認していない」と回答した方)



■その他意見

・見たことはあるが理解できていない

- ハザードマップを確認していない理由については、「調べようと思っているが、調べていない」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「調べようと思っているが、調べていない」が最も多い回答となっています。